

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	学校教育課	
施策	17	子どもの教育の充実	評価 責任者	小山田 秀次	内線 7330
小施策	17-4	教職員研修の充実	評価 シート 作成者	吉田 尚	内線 7332

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
学校の教育課題は年々複雑・多様化していることから、職能・経験年数や教育課題に応じた幅広い研修を実施し、教職員の資質や指導力の向上を図る必要がある。		日々の教育実践に必要な教職専門職としての研修を行い、教職員の資質や指導力の向上に努め、教育の質的向上を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(対象をどのようにしたいのか)
教員		誠実公正で、かつ指導力が向上されている。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 教育研究所公開講座参加者数	ポイント	→			
当初値 (H25) 602	H31目標値 650	H36目標値 650	公開講座の参加人数は年々増加している。すでに目標値を上回っている。		
			夏・冬の公開講座と研究発表大会のうち、必ず1回は参加するよう各学校へ呼びかけを行ったこと。		
			問題点		
			参加人数は増えているが、長期休業中の開催に、学校から負担が大きいとの声も寄せられている。		
			問題の要因分析		
			県、教育事務所、他団体の教員研修と時期が重複している。あるいは非常に近い日程で実施されている。		
指標② 公開講座参加者の満足度	ポイント	→			
当初値 (H25) 99.7	H31目標値 100.0	H36目標値 100.0	満足度(4段階評価のうち3と4)は高い状態が続いている。		
			公開講座の内容をアンケート等による教職員のニーズ把握をした上で設定し、参加の甲斐のある研修を行ったこと。		
			問題点		
			満足の内容(評価の根拠)までは把握が十分でない。		
			問題の要因分析		
			限られた研修時間の中でアンケート(評価)にかかる時間をできるだけ減らしたいと考えるため。		

今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
★ 参加の呼びかけ徹底を継続する。また、開催時期と研修日程の検討を十分に行い、負担の軽減を図るとともに、研修内容の充実に努める。	
★ 今後、より質の高い研修を行うためには、参加者の満足の内容も可能な限り把握したい。アンケートの方法について吟味したい。	